

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 17 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究（A）

研究期間：2009 年度 ～ 2011 年度

課題番号：21251012

研究課題名（和文） 東南アジアにおける複ゲーム状況の人類学的研究

研究課題名（英文） Anthropological Study on Multiple-Game Situation in Southeast Asia

研究代表者

杉島 敬志（SUGISHIMA TAKASHI）

京都大学・大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・教授

研究者番号：80196724

研究成果の概要（和文）：「複ゲーム状況」（相反する規則や信念が同時並行的に作用する事態）に着目し、その民族誌的研究を東南アジア諸国において実施するとともに、そこで得られた資料にもとづいて、文化人類学の研究対象のイメージの革新をはかるために、一群の分析概念を開発した。

研究成果の概要（英文）：Based on the analysis of ethnographic data from field researches in Southeast Asian countries, focusing on "multiple-game situation" in which rules-beliefs that conflict with each other remain in force, a group of analytical concepts was newly developed in order to reimagine the subjects and objectives of anthropological research.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
21 年度	12,100,000	3,630,000	15,730,000
22 年度	10,400,000	3,120,000	13,520,000
23 年度	8,100,000	2,430,000	10,530,000
年度			
年度			
総計	30,600,000	9,180,000	39,780,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文化人類学・民俗学

キーワード：複ゲーム状況、規則－信念、コミュニケーション、権威者、不定見者、累積的歴史観

1. 研究開始当初の背景

文化人類学の伝統的アプローチは、「社会構造」や「文化体系」のような複合体を念頭におくことで、研究対象を措定してきた。この状態は、現在にいたるまで、根本的に再考されることなく継続してきた。だが、フィールド調査において人類学者は、矛盾、対立する多様な説明に接し、そこから整合的な像を導き出すことにたえず苦慮する。このことだけを考えても、上記のような問題設定には大

きな疑問のあることが理解できる。

2. 研究の目的

本研究は、東南アジア諸地域を対象とするフィールド調査と民族誌研究にもとづき、過去のさまざまな経緯に由来し、現在に累積する多様で雑多な規則－信念がどのような関係にあり、また、どのような関係にありうるかを、「複ゲーム状況」、すなわち、相反する規則や信念が同時並行的に作用する事態（や

そのことを意識している事態)に焦点をあてながら明らかにすることを目的とする。

3. 研究の方法

あらかじめ計画してあったインドネシア、マレーシア、タイ、フィリピン、台湾における調査地で毎年、平均数週間、複ゲーム状況と関連する事象についてフィールド調査を実施し、その整理分析をおこなった。

また、平成21年度には2回、平成22年度と23年度にはそれぞれ5回の研究会を京都大学で開催し、研究代表者と研究分担者の全員が調査研究の成果を発表するとともに、発表内容について議論をおこない、「複ゲーム状況」の概念と関連づけながら、情報や知識の共有をはかった。

4. 研究成果

(1) 研究代表者と研究分担者がフィールド調査をおこなった地域および、この調査において民族誌的データの集中的な収集がはかられた複ゲーム状況と関連する事象は以下のとおりである。

杉島 (研究代表者): インドネシアのティモール島南西部およびフローレス島中部における、狡智や暴力を行使することで首長の地位を獲得することの正当性を主張する考えと、生命の根源を掌握する、過去から継承されてきた首長の地位を重視する考えが相対立しながら並存してきた状況。

片岡 (以下研究分担者): 中国の雲南を故地とし、ビルマ、ラオス、タイ北部の山地に居住するラフ人の宗教に焦点をあて、キリスト教、精霊祭祀、仏教、土着主義的な千年王国運動等が、たがいに相容れないものであるという緊張関係をはらみながら並存してきた状況。

飯田 (研究分担者): タイ北部における、選択可能な複数の治療法が混交することなく、複数の規則-信念が相反するものとして当事者に認識されており、当事者はそれをジレンマや板挟として経験している状況。

津村 (研究分担者): タイ東北部におけるピー信仰、特に守護霊信仰をめぐる異なる複数の論理が並存しながら、ときに葛藤を顕わにする状況。

森田 (研究分担者): タイにおける図面にもとづいて開発、製造がおこなわれる近代工業技術と、見本にもついて改良と製造がおこなわれる地元工場におけるエンジニアリングをめぐる複ゲーム状況。

多和田 (研究分担者): 高度に産業化した消費社会においてイスラーム化が進展するメカニズム、特にマレーシアにおけるハラール認証制度に焦点をあて、それがイスラーム的ゲームと経済的ゲームとの複ゲーム状況と営まれている状況。

東 (研究分担者): フィリピン・ビサヤ地方の都市的環境のなかで、近代医療、呪医による医療、カトリックが緊張をはらんだ関係のもとに並存し、住民がこれらの医療資源を横断的に活用している状況。

細田 (研究分担者): フィリピンのサマル島からマニラへ移住した人々あいだで観察される、移住先で獲得された富とその分配をめぐる、複数の規則-信念が対立する事態。

加藤: インドネシアの西カリマンタンにおけるアフラヤシの大規模プランテーションと小農が接合したり、分離・並存するようになる歴史的過程。

中村: インドネシアのバリの慣習村における、昔通りにすることを良しとする伝統派、新しい知識や収入源を村の運営に導入しようとする近代派との対立や、それらの考えに無関心な大多数の村人が並存する状況。

綾部: タイ北部のリス人のあいだに見られる、NGO関係者や知識人が支持する先住民アイデンティティを重視する活動と、それに対立する国民アイデンティティを強調する動きとの対立、およびそれ以外の不定見な大多数のリス人が並存する状況。

市野澤: タイのサービス産業に焦点をあて、商品交換の取引対象にならない異性間で成立する親密性が商品交換の対象として取引される状況。

石垣: 台湾の在来民、ブヌン人のあいだで、土地に関わる歴史的に経緯の異なる多様な規則-信念が同時並行的に作用している状況。

以上は、詳細な調査がおこなわれた複ゲーム状況と関連する事象であり、複ゲーム状況それ自体は社会生活のいたるところに遍在することが確認された。

(2) 上記のような民族誌的データの分析と研究会における議論を通して明らかになってきた論点は以下のとおりである。

①文化は行為と認識の枠組として作用することで、一定の様式をもつ社会生活を成立させる規則-信念の体系と定義されてきた。だが、複ゲーム状況では相反する規則-信念が同時並行して作用する結果、その規則-信念は随順すべき社会生活の枠組ではなくなり、たがいに他にとって否定されるべき経験命題となる。複ゲーム状況は社会生活のいたるところに遍在するために、これは例外的かつ部分的な現象とはいえない。その一方で、過失や違反に対する叱正や矯正が日常的に頻繁におこなわれていることから明らかのように、規則-信念は遵守することが強く求められ、また強い効力をもつこともある。それゆえ、文化の概念にかわるものとして、規則-信念が無効になったり、有効になったり

する様態を適切に語るための一群の概念を整備する必要がある。

②複ゲーム状況では、ある規則-信念を奉じながら高い頻度でコミュニケーションをおこなう一群の人々と、それと相反する規則-信念を抱懐し、かつ同様のコミュニケーションをおこなう一群の人々との対立が見られる。

③こうしたコミュニケーションの中心には、コミュニケーションを通して、それに参与する人々に規則-信念への随順をはかる権威者の存在がある。

④こうした権威者は、複数の規則-信念を結びつけて語るが、こうした総合は権威者ごとに異なる。この個別特異的な総合の並存は、権威者や権威者を中心とするコミュニケーションと無関係に措定される文化の概念が絵空事にすぎないことをしめしている。

⑤文化の概念は、社会という空間に相互に結びつきをもたないで浮動する規則-信念のそれ自体では非凝集的な性格や、規則-信念を文化のような複合体として総合し、物語る権威者の役割をとらえそこねている。

⑥複ゲーム状況において対立する一群の人々は少数派であり、大多数の者は、権威者を中心とするコミュニケーションとは距離をおいた生活を営んでいる場合が多い。こうした不定見者の存在は、これまで文化人類学においてほとんど注目されてこなかった。

(3) 本研究の成果を公刊すべく、平成 24 年度中に研究代表者と研究分担者が執筆した論文を編集し、平成 25 年度中に出版する計画である。これによって本研究の所定の計画は終了する。しかし、本研究を実施するなかで浮かび上がってきた解明すべき課題がいくつかあり、これらについては、あらためて共同研究を組織し、今後とも次世代の文化人類学的研究を内容豊かなものにするべく努力していきたい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 21 件)

1. 杉島敬志、漱石の「道草」に描かれる複ゲーム状況とその人類学的意義、神戸文化人類学研究、査読有、4 巻、2012、53-66
2. 森田敦郎、Rethinking Technics and the Human: An Experimental Reading of Classic Texts on Technology, Nature Culture, 査読有、Vol. 1, 2012, 40-58
3. 森田敦郎、モハーチ・ゲルゲイ、比較を生きることについて：ポストプルーラル人類学へ向けて、哲学、査読有、125 巻、2012、288-307

4. 多和田裕司、イスラームと消費社会：現代マレーシアにおけるハラール認証、人文研究、査読有、63 巻、2012、97-108
5. 東賢太朗、身体・他者・共同性：宗教的フィールドにおける「変身」から、年報人類学研究、査読有、2 巻、2012、97-108
6. 杉島敬志、ニューギニア高地・カラム人の動物への関係行為をめぐる複ゲーム状況、南方文化、査読有、37 巻、2011、1-21
7. 片岡樹、跨境民・ラフ族、中国 21 (愛知大学現代中国学会)、査読無、34 巻、2011、225-242
8. 片岡樹、食人鬼のいる生活：タイ山地民ラフの妖術譚とその周辺、社会人類学年報、査読有、37 巻、2011、1-25
9. 津村文彦、善霊と悪霊のはざま：タイ東北部の村落守護霊をめぐる、東南アジア：歴史と文化、査読有、40 巻、2011、54-78
10. 森田敦郎、Skills Development in Thai Informal Manufacturing Sector: Development of Appropriate Technology and the Role of Apprenticeship, Skills Development for the Emerging New Dynamism in Asian Developing Countries under Globalization: Third Annual Conference of the Academic Network for Development in Asia (ANDA) Proceedings, 査読無、2011、419-426
11. 多和田裕司、消費されるイスラーム：現代マレーシアにおけるイスラームと消費文化、人文研究、査読有、62 巻、2011、93-108
12. 市野澤潤平、災害から地域を見る：タイ南部におけるインド洋津波の微視的描写、地域研究、査読有、Vol. 11, No. 2, 2011、108-118
13. 市野澤潤平、プーケット復興委員会の熱い夏：インド洋津波後のプーケット在住日本人の経験におけるリスクと孤独、地域研究、査読有、Vol. 11, No. 2, 2011、161-187
14. 東賢太朗、人類学から「リスク社会」を再考する—共同研究：リスクと不確実性、および未来についての人類学的研究、民博通信、査読無、131 巻、2010、10-11
15. 市野澤潤平、〈獲る〉海から〈見る〉海へ：ワイルドライフ・ツーリズムによるリーフの観光資源化、年報タイ研究、査読有、10 巻、2010、17-34
16. 杉島敬志、人を舐める犬の出現：インドネシア・中部フローレスにおける犬-人関係の変化、東南アジア研究、査読無、47 巻、2009、233-234
17. 津村文彦、タイの精霊信仰におけるリアリティーの源泉：ピーの語りにもみる不可知性とハイパー経験主義、福井県立大学論集、

- 査読有、33 卷、2009、1-24
18. 多和田裕司、マレーシア・イスラームにおける「イスラーム」と「世俗」、人文研究、査読有、61 卷、2009、145-161
 19. 東賢太郎、観光・環境・生活：フィリピン・ボラカイ島の観光文化に関する予備的考察、宮崎公立大学人文学部紀要、査読無、16 卷、2009、1-11
 20. 細田尚美、ドバイ在住のフィリピン人の生存戦略、UAE: United Arab Emirates、査読無、46 卷、2009、25-28
 21. 石垣直、土地所有をめぐる現実：台湾・ブヌン社会における保留地継承・分配制度の現代的諸相、アジア・アフリカ言語文化研究、査読有、77 卷、2009、83-120

[学会発表] (計 38 件)

1. 森田敦郎、Translational Movements: An Introduction, Translational Movements: Ethnographic Engagements with Technocultural Practices, 2012/03/03, 大阪大学
2. 市野澤潤平、ワイルドライフ・ツーリズムと不確実性：タイのダイビング観光を事例に、日本文化人類学会東北地区研究懇談会 2011 年度第 4 回例会、2011/12/10、山形大学
3. 片岡樹、東南アジア大陸边疆山地からみた国家：「山地民研究」によって見えてくるもの見えなくなるもの、東南アジア学会第 86 回研究大会、2011/12/05、東海大学
4. 綾部真雄、支援と時間：タイ山地民リスの文化振興活動への段階的参与の経験から、「支援の人類学」国際シンポジウム：グローバル支援の時代におけるボランティア—東南アジアの現場から考える、2011/11/05、国立民族学博物館
5. 津村文彦、「見えないピー」があること：ピー、知識、侵犯、第 10 回九州人類学研究学会オータム・セミナー、2011/10/29、宗像市国民宿舎ひびき
6. 津村文彦、家畜飼養におけるモラル・エコノミーの地域間比較：アフリカと東南アジアのあいだ、第 61 回地域農林経済学会大会、2011/10/22、愛媛大学
7. 森田敦郎、Shaping Floods: Layered Infrastructures for Water Management and Hydrological Simulation in Chao Phraya Basin, Waterworlds Workshop, 2011/09/27, University of Copenhagen
8. 飯田淳子、Physical Examination as the 'Laying on of Hands': The Doctor-patient Relationship in Test-dependent Clinical Settings in Japan, Society for East Asian Anthropology Conference, 2011/08/01, Chonbuk National University, Korea
9. 飯田淳子、Contacting Spirits and Poisons: Suffering and Healing in Northern Thailand, The 11th International Conference on Thai Studies, 2011/07/26, Siam City Hotel, Thailand
10. 森田敦郎、Veins: Industrial Metabolism, Secondary Resource Trade and Environmental Infrastructures in Japan and Thailand, Environmental Infrastructures Workshop, 2011/06/27, 大阪大学
11. 片岡樹、The Concept of Exchange and Reciprocity in the Discourse of Religion among the Lahu in Northern Thailand, Ethnic Interaction in the Context of Globalization in Southwest China and Its Relationship with Southeast Asia, 2011/06/18, Yunnan Univ. Kunming, China
12. 飯田淳子、「手当て」としての身体診察：日本の総合診療・家庭医療における医師・患者関係、日本文化人類学会第 45 回研究大会、2011/06/11、法政大学
13. 片岡樹、Religion as Non-religion: The Place of Chinese Temples in Phuket, Southern Thailand, The Joint Conference of the Association for Asian Studies and International Convention of Asia Scholars, 2011/04/02, Hawaii Convention Center, Honolulu, USA
14. 森田敦郎、Rethinking Technics and the Human: An Experimental Reading of Classic Texts on Technology, Rethinking the Human and the Social, 2010/12/07, 如水会館、東京
15. 市野澤潤平、観光産業と風評災害：スマトラ沖地震・津波後のプーケット在住日本人社会における不確実性とリスク、東南アジア学会第 84 回研究大会、2010/12/05、東洋大学
16. 森田敦郎、Ethnographic Machine: An Anthropological Experiment toward Performative STS, 2010/11/04, 大阪大学人間科学研究科
17. 綾部真雄、リス族社会の変容と私の研究：山のアナーキストの現在、シンポジウム・タイ北部山地民の過去・現在・未来、2010/10/17、南山大学
18. 綾部真雄、銀の蝶プロジェクト—タイ山地民リスによる土着の叡智を通じた〈麻薬禍克服ネットワーク〉の構築、トヨタ財団シンポジウム・よりよい未来を構築するために、2010/10/13、アムラックスホール、東京
19. 片岡樹、從土地神崇拜觀察泰國普吉島の

- 地域性、2010 海外華人與華僑教育國際研討會、2010/10/09、國立臺灣師範大學、台湾
20. 森田敦郎、土着の機械技術における発展と多様性：人類学、科学技術論、地域研究の狭間から考える、日本タイ学会・若手研究会、2010/10/02、東京大学社会科学研究所
 21. 綾部真雄、Why Culture Matters: Culture and Security of the Lisu in Northern Thailand, ILCAA-UMS Annual Academic Exchange, 2010/09/17, University of Malaysia
 22. 森田敦郎、Out of Context, Searching for Context: Translation and Fluidization of Agricultural Machinery in Thailand, Annual Conference of Society for Social Studies of Science, 2010/08/26, 東京大学
 23. 飯田淳子、Standardizing as a Wholebody Treatment: the Impact of Transnationalism on Thai Massage, International Workshop on Transnational Healthcare in Asia, 2010/07/04, University of Heidelberg, Germany
 24. 細田尚美、Border Control and Filipino Expatriates Pursing 'Dubai Dream', The 2010 Exeter Gulf Studies Conference, 2010/07/02, University of Exeter, U.K.
 25. 東賢太郎、ギャンブルとしての教育と労働：フィリピン地方都市の無職者からリスク社会を考える、日本文化人類学会第44回研究大会、2010/06/12、立教大学
 26. 片岡 樹、非宗教という宗教：南タイ・ブーケットにおける中国系廟にみる制度宗教外の宗教実践、東南アジア学会第83回研究大会、2010/06/05、愛知大学
 27. 森田敦郎、Ethnography of the Futures: An Experimental Approach in Applying Anthropology in Higher Education, Anthropological Analysis Seminar, 2010/05/12, Department of Anthropology, Copenhagen University
 28. 森田敦郎、Comparative Imaginations and Discontinuous Mediations: Struggles in Technology Transfer and Supporting Industry Development, Design of Organization and IT Workshop, 2010/05/10, IT University of Copenhagen
 29. 森田敦郎、Ethnographic Machine: An Experiment in Postplural Anthropology, Design of Organization and IT Workshop, 2010/04/16, IT University of Copenhagen
 30. 森田敦郎、タイにおける土着の技術発展とグローバル化：技術移転、企業進出、土着化をめぐるダイナミズム、東南アジア学会第82回研究大会シンポジウム「企業進出と地域社会変容」、2009/12/06、慶応大学三田キャンパス
 31. 森田敦郎、Diffusive Agency and Materiality in Informal Engineering Practice: The Case of the Engineering Identity in an Informal Sector of Thailand, Annual Conference of Society for Social Studies of Science, 2009/10/29, Annual Conference of Society for Social Studies of Science, Washington DC
 32. 細田尚美、How Do Filipino Nurses and Caregivers Do "Cross-country" in the World? International Symposium on "Maritime Links and Transnationalism in Southeast Asia: Past and Present", 2009/10/27, 台湾中央研究院
 33. 飯田淳子、The Efficacy of Thai Massage in Social Contexts, The Seventh International Congress on Traditional Asian Medicine, 2009/09/09, Thimphu, Bhutan
 34. 多和田裕司、マレーシアにおける「イスラーム」と「世俗」：「イスラーム国家/世俗国家」論争を中心に、「世俗化/世俗主義」と「イスラーム中道派」、上智大学共同利用・共同拠点公募研究「イスラーム社会の世俗化と世俗主義」/京都大学イスラーム地域研究センター・ユニット2「中道派」合同ワークショップ、2009/07/25、京都大学
 35. 森田敦郎、Technological Indigenization and Emergent Relations: Development of Agricultural Machinery in Thailand, Conference of East Asian Science, Technology and Society, 2009/06/20, National Yand Min University, Taipei
 36. 飯田淳子、精霊と毒との接触：北タイ農村における患いと治療、日本文化人類学会第43回研究大会、2009/05/31、大阪国際交流センター
 37. 片岡 樹、謎を愉しむ：タイ山地民のフィールドで出会った変な話、日本文化人類学会第43回研究大会、2009/05/30、大阪国際交流センター
 38. 石垣 直、先住民族運動言説と現地社会：台湾・オーストロネシア語族系住民による地図作成運動の事例から、日本文化人類学会第43回研究大会、2009/05/30、大阪国際交流センター
- [図書] (計 15 件)
1. 飯田淳子、津村文彦、東健太郎、他、人文書院、呪術の人類学 (白川千尋・川田牧人編)、2012、328

2. 森田敦郎、世界思想社、野生のエンジニアリング：タイ中小工業における人とモノの人類学、2012、280
3. 細田尚美、他、Kyoto University Press and Silkworm Books, The Family in Flux in Southeast Asia: Institution, Ideology, Practice (eds. Yoko Hayami, Junko Koizumi, Chalidaporn Songsampan and Ratana Tosakul), 2012, 556 (365-386)
4. 中村 潔、他、東信堂、バリ島に生きる古文書(中村 潔・吉原直樹・長谷部弘編訳)、2012、144
5. 石垣 直、他、アジア経済研究所、交錯する台湾社会(沼崎一郎・佐藤幸人編)、2012、374 (101-137)
6. 片岡 樹、他、佼成出版社、静と動の仏教：アジア仏教史 04 スリランカ・東南アジア(奈良康明、下田正弘編)、2011、525 (383-413)
7. 津村文彦、他、University of Dares Salaam Press, Comparative Perspectives on Moral Economy: Africa and Southeast Asia (eds. Sam Maghimbi, Isaria N. Kimambo, and Kazuhiko Sugimura), 2011, 363 (137-153)
8. 森田敦郎、市野澤潤平、他、世界思想社、現実批判としての人類学(春日直樹編)、2011、320
9. 東 賢太郎、三元社、リアリティと他者性の人類学：現代フィリピン地方都市における呪術のフィールドから、2011、374
10. 石垣 直、風響社、現代台湾を生きる原住民——ブヌンの土地と権利回復運動の人類学、2011、408
11. 片岡 樹、他、風響社、東アジアにおける宗教文化の再構築(鈴木正崇編)、2010、484 (243-272)
12. 飯田 淳子、他、Ashgate Publishing Company, Everyday Life in Asia: Social Perspectives on the Senses (eds. Kalekin-Fishman, D. and Kelvin E. Y. Low), 2010, 240 (139-156)
13. 加藤 剛、他、風響社、開発の社会史：東南アジアにみるジェンダー・マイノリティ・境域の動態(長津一史・加藤剛編)、2010、542 (397-440)
14. 石垣 直、他、アジア経済研究所、台湾総合研究Ⅲ：社会の求心力と遠心力(佐藤幸人編)、2010、542 (145-161)
15. 片岡 樹、他、云南人民出版社、中国边境民族的迁徙流动与文化动态(塚田誠之・何明主編)、2009、425 頁 (351-368)

〔産業財産権〕

- 出願状況(計0件)
- 取得状況(計0件)

〔その他〕
ホームページ等
なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

杉島 敬志 (SUGISHIMA TAKASHI)
京都大学・大学院アジア・アフリカ
地域研究研究科・教授
研究者番号：80196724

(2) 研究分担者

片岡 樹 (KATAOKA TATSUKI)
京都大学・大学院アジア・アフリカ地域研
究研究科・准教授
研究者番号：10513517
飯田 淳子 (IIDA JUNKO)
川崎医療福祉大学・医療福祉学部・准教授
研究者番号：00368739
津村 文彦 (TSUMURA FUMIHIKO)
福井県立大学・学術教養センター・准教授
研究者番号：40363882
森田 敦郎 (MORITA ATSURO)
大阪大学・人間科学研究科・講師
研究者番号：20436596
多和田 裕司 (TAWADA HIROSHI)
大阪市立大学・文学研究科・教授
研究者番号：00253625
東 賢太郎 (AZUMA KEN'TARO)
名古屋大学・文学研究科・准教授
研究者番号：40438320
細田 尚美 (HOSODA NAOMI)
香川大学・インターナショナルオフィス・講師
研究者番号：70452290
加藤 剛 (KATO TSUYOSHI)
総合地球環境学研究所・客員教授
研究者番号：60127066
中村 潔 (NAKAMURA KIYOSHI)
新潟大学・人文社会・教育学系・教授
研究者番号：60217841
綾部 真雄 (AYABE MASAO)
首都大学東京・人文科学研究科・准教授
研究者番号：40307111
市野沢 潤平 (ICHINOSAWA JUNPEI)
宮城学院女子大学・
学芸学部国際文化学科・准教授
研究者番号：10582661
石垣 直 (ISHIGAKI NAOKI)
沖繩国際大学・
総合文化学部社会文化学科・講師
研究者番号：60582153

(3) 連携研究者

なし